

2019年度  
埼玉地区主題

主にある交わりを  
深めよう

日本基督教団関東教区

# 埼玉地区通信

2019年8月11日

発行人

日本基督教団 関東教区 埼玉地区委員会

委員長 小林 眞

さいたま市岩槻区本町4-3-15

http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/

印刷所 (株)シャローム印刷

## 二〇一九年度地区総会報告

書記 大坪 直史

二〇一九年度埼玉地区総会は、三月二十一日(木・祝)、大宮教会を会場に、議員一四三名中一〇六名の出席を得て開催された。

開会礼拝での説教者は、この三月で越生教会を辞された江田めぐみ牧師であった。



総会議長は川染三郎牧師(地区委員長・鴻巣)が務めた。

また、関東教区問安使の福島純雄牧師(教区副議長・筑波学園)と飯塚拓也牧師(教区宣教部委員長・竜ヶ崎)の挨拶を受けた。



(1) 地区委員長選挙  
小林眞牧師(岩槻・新)が地区委員長に選出された。

(2) 二〇一八年度地区諸報告、地区会計決算報告及び会計監査報告が、夫々質疑応答後、賛成多数で承認された。



(3) 地区委員選挙  
教師は大坪直史

(4) 二〇一九年度宣教活動計画について  
地区主題は「主にある交わりを深めよう」、聖句は「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」(コリントの信徒への手紙1 十二章二十六節)を継続とした。

小林眞新地区委員長より以下三つの活動計画が提起され、賛成多数で可決された。

① 基本的に最寄り区の諸教会・伝道所の主にある一致と連帯の強化に努める。  
② 各委員会・各部等の集会や行事の学びや交わりを通して地区全体の活動が充実するよう取り組む。  
③ 教会全体修養会は参加者が集いやすいよう、地区内の宿泊施設を会場

史(熊谷・再)、指方周平(東所沢・再)、栗原清(武蔵豊岡・新)、信徒は大熊眞弓(東京聖書学校吉川・再)、酒井道雄(浦和東・新)が選出された。任期継続中の教師は金田佐久子(西川口)、竹内紹一郎(深谷西島)、町田さとみ(初雁)。信徒は栗原初音(浦和別所)、本田彰(大宮)。なお、信徒の川口孝弘(埼玉新生)は二期四年を満了。

最寄一区から三区が、共に捧げる新年合同礼拝も予定されている。

「たね」  
ある方と話していた時のこと。「毎日忙し過ぎる」とその方が言いました。なぜ忙しいのかを分析し合うと、メールやSNSなどが急速に普及し、「待ち時間」が無くなったからでは、と気づきました。

(5) 二〇一九年度予算について、会計の町田さとみ委員より説明を受け、賛成多数で可決された。

最後に、会場を提供してくださった大宮教会に、心から感謝を申し上げます。

郵便で連絡を取り合う時には、その郵便物が届くまでの時間が「待ち時間」となり、その分だけ時間の余裕がありました。けれども、メールなどで情報のやり取りが出来るようになる、情報をすぐに受け取ることが出来る、その情報をもとに、すぐに次の仕事が出来るとなりました。

(6) 議案第八号・地区会計監査委員選出、第九号・地区総会議事録確認、第十号・次回地区総会会場及び日程について、地区委員会に付託することが賛成多数で可決された。

今年度の埼玉地区の歩みも、教会の頭なる主の御栄光のもと、実り豊かなものとなりますようお祈りいたします。

「便利さ」と「せわしなさ」は、表裏一体のような気がします。日常生活は、「待つ」時間が必要なのではないかと思えます。たとえば待つ時が、不便に感じたとしても、

信仰に対しても、待てなくなっているのではないかと祈つたら、すぐに神様が答えてくださることを求めている自分に気づきます。「待てないなら、祈らないでください」との言葉が心に響きます。(町田さとみ)

# 地区委員長挨拶

## 地区委員長に選任されて

岩槻教会 小林 眞



三月末の地区総会で、二期四年の任期を全うされた川染三郎委員長の後を受け、埼玉地区委員長に選任された。

教会総会などでは、長老に選挙された方には「教会では、皆さまの選びを知る方法が選挙ですよ」と言っている手前、断るわけにもいかず、川染先生も埼玉地区に赴任されて四年で地区委員長に選任されたとか。

それを聞くと、ほぼ同じで、四年目の終わりに選任されたなら、断るわけにもいかない。

何から始めるべきか。いろいろ考えたが、やはり、地区内六十一教会・伝道所の名称とそこに仕えておられる教職名を覚えることが先決と思われた（なお、先に挙げた数字は、第六十九回教区総会前のものであり、少し減るかもしれない）。

前委員長は「地区内の教会が、お互いを意識し、高め合い、深め合うには、まず教職同士

が、理解し合い、信頼することの大切さ」を繰り返し話された。そのことが次第に浸透し、地区を三つに分けての教師会への出席も少しずつ増え、同時に近隣教会への思いも変化していることが見られることも嬉しいことである。

私は、それに加えて「使徒信条」の告白する「我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会を信ず」とも大切に思わざるを得ない。

即ち、私たちは、全体教会なる「日本キリスト教団」なくしては教会たり得ないのである。

このことを端的に表す表現として「日本キリスト教団は、教師を立て、教区は教会（伝道所）を立て、教会は礼拝（洗礼者）を生む」との言葉を覚えたい。

このことを常に弁えつつ歩む時に、埼玉地区もキリストの体なる教会として、少しずつの成長が加えられると信じている。皆様のお支えを乞う。

# 新地区委員紹介

## 十主に導かれるままに

熊谷教会 大坪 直史



一期一年目は地区書記を務めさせて頂きました。一人では担い切れない務めであることを痛感させられつつ、ただ主に守られ助けられ、家族と熊谷教会をはじめ、地区の皆さまの祈りと支えによって、今があることを、深い畏れと感謝をもって覚えるばかりです。

今地区総会において、二期目の地区委員・書記を仰せつかりましたが、ただ主のお声掛けと信じ、罪深く迷ってばかりの羊ではあります。主の御手に引き寄せられ、主の両肩に担がれて、主に導かれるままに歩ませて頂きたいと心から願っております。

埼玉地区の諸教会・伝道所の皆さまと共に、主の十字架の苦悩と死、主の復活の歓喜と命に与りながら、主にある一致と交わりの内に、健やかな教会形成・地区形成と豊かな福音伝道に歩ませて頂きますよう祈っております。

## 十地区委員に再選されて

東所沢教会 指方 周平



二年前の地区総会で地区委員に初めて選出された時は、自分が覚えられ見出された驚きや嬉しさがあつつも、それ以上に、自分に地区委員が務まるのだろうかという不安で一杯でした。

今回、地区委員に再選され、継続して教育委員会と青年部を担当させていただくことになりました。二期二年を終えてみると、決して地区のことがよく分かったわけではなく、地区委員として十分な働きができたと思えないのですが、そんな自分が地区の諸教会、伝道所の皆様の祈りに包まれ、主に交わりを深められながら、キリストの体である埼玉地区の御用に用いられてきた恵みの二年間を数え直しております。

これまで同様、これからも皆様の祈りが必要不可欠です。もう一期二年、皆様の祈りに私を覚えてくださいますよう、よろしく願います。

## 十地区委員に選ばれて

武蔵豊岡教会 栗原 清



「わたしの救いの右の手であなたを支える（イザヤ書四十一章十節）」、二〇〇六年に武蔵豊岡教会に赴任し、翌年の地区総会で突然地区委員に選出され、大変驚いたことです。

元飯能教会の主橋誠先生が地区委員長の時は、地区書記としてお任せしました。その後、元上尾合同教会の秋山徹先生が教区議長の時、教区書記として六年間お仕えして地区の働きから離れました。今回は久しぶりに埼玉地区の働きに参与させて頂けることを豊かな神様の恵みとし、小林眞地区委員長を始めとする他の地区委員と共に、主の御心の実現に参与させて頂ければ、と主に祈り願っております。



地区委員会での互選により、副地区委員長としての地区委員長をお支えすることにになりました。私は欠け多き器ですが、主の御手に支えられて用い頂ければ幸いです。

因みに、私の准允と按手は、以前、東海教区議長の小林眞先生から授けられました。

十地区委員に再選されて

東京聖書学校吉川教会 大熊 眞弓



二期目の補助会計を担います。東京聖書学校吉川教会は、教団認可神学校を併設する教会です。教会の御用と共に、微力ながら、埼玉地区の働きを担わせていただきます。

『味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。』(詩編三十四編九節)の御言葉を胸に、埼玉地区の歩みに、共に与かる幸いを享受して行きたいと思えます。

みなさまのお祈りに覚えていただければ幸いです。

十地区委員に選出されて

浦和東教会 酒井 道雄



所属の浦和東教会では、書記と会計補助を担当しております。父が長年、関東教区新潟地区で牧会をしておりまして、地区の集まりなどでは私が存じ上げない方から声をかけられることがあります。

今回の地区総会は、私にとってまだ二回目の出席でしたので、よもや地区委員に選出されようとは思ってもありませんでした。まだまだ信仰的には未熟な者ですが、このような私でも「神様が用いて下さった」ということでしょうか。

地区委員としては「障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会」の担当をさせていただきます。地区委員の働きについてもこれから学ぶことが多いですが、微力ながらも、できる範囲で与えられた役割を果たしていきたいと思えます。皆様よろしくお願ひいたします。

追悼

鈴木一義教師



越谷教会 石橋 秀雄

まさに神の家族

鈴木一義先生の葬儀告別式は、二階の礼拝堂となっていたホールも一階の部屋も参列者であふれた。最前列に在園児の席があり、司式者の鈴木証一牧師は「園長先生は」と一義先生の事を園児に届く言葉で語られた。まさに神の家族

追悼

岡本不二夫教師



隠退教師 遠藤 富寿

いこいの汀に

ともないたもう

先生は、詩編二十三篇の表題聖句を大愛愛しておられました。

甲府、上富阪、白銀、平塚、浦和東教会を牧され、引退後約二十年、埼玉大通り教会にお母様、奥様と共に出席しておられました。先生は、牧師であると同時に研

だ。園児を中心の葬儀礼拝は印象深いものであった。

鈴木一義先生との最初の出会いには、私が神学生時代に、春日部教会で開催されたワークキャンプに参加し、保育園の庭の整備をした。青年牧師鈴木先生の鋭い目、キレのある言葉に圧倒された。鈴木先生への憧れの思いを抱いた。

先生が関東教区宣教部委員長時代、私は教区の主事をしていた。互助の破綻を訴えた。次年度は、二十五%負担金を上げなければ互助は破綻する危機的状況の中で、先生は大改革を断行され、全て互助は

献金で賄うという「ナルドの壺」運動を展開。この献金運動で教区に血が通いだし、一千万円を越える献金が集まり続け、教区の互助制度は安定して行った。また、子どもを中心とする礼拝をするために勝手に教会を設立し、シャロンのばら教会との二つの教会で、同時に行われた事も私たちの大きな驚きだった。

持田行人牧師が岩槻教会におられた頃は、良く三人で集まり、食事をし、教会の課題、幼稚園の課題などを話し合った。鈴木一義先生の思い出はつきない。

究者でした。ゴルフツアー「イエスの死と復活」「明治キリスト教の一断面 宣教師シュビンナーの滞日日記」ベンゲルの新約聖書註解「グノーモン」の翻訳を出版されました。この最後の翻訳では、大変苦労され目を傷めました。

牧会者の先生は、何処の教会においても誠実に働かれ、教会員から慕われておりました。先生は、大変謙遜な方で、六歳年下の私に対しても牧会者として接してくださいました。私は、先生から牧師の在りようを学びました。

高齢のお母様に接する先生の態度は、実に微笑ましいものでした。ある時、先生とデイケアに行っているお母様を見舞った時、幼稚

園でする体操などをしてる姿を見て、「遠藤君、高齢者になるとあのようなくともしなないとならないのかね」と、つぶやいていました。奥様には頭が上がらないとみえて「内のでいいちには負けるよ」と言っていました。はじめ何のことか分かりませんでした。先生が物を探していると、奥様が「定位置、定位置」と言うそうです。先生は、どちらかというと言った。先生は、時々冗談を真面目な顔で言うので可笑しくなります。先生は、全てにおいて誠実な方でした。正に牧師の手本のような方でした。主の備えられる憩いの汀に佇む先生を思い浮かべつつ。

# 祝 就 任

## 十就任にあたり

上尾合同教会 武田 真治



四月より上尾合同教会に赴任しました

武田真治です。よろしくお願ひ致します。

前任地は西中国教会の広島教会でした。そこで十二年間牧会させて頂き、被爆の実相に触れられ、良き学びもさせて頂きました。その前は中部教会の金城教会にて十五年間牧会しました。実はその前にこの関東教会新潟地区にありませう新潟教会で七年間牧師をさせて頂きました。その七年間は敬和学園高校で聖書科講師も担当しました。故に少しはこの教区について知っているつもりです。なじみのある先生方のお名前も拝見し、とても楽しみにしております。

## 十招聘に感謝

行田教会 西川晃充



一九六三年、兵庫県生まれ。尼崎竹谷教会(活水の群

れ)で受洗・献身し、メソジスト派、バプテスト派、会衆派の三つの神学校を経て、新潟大学大学院博士課程で初期キリスト教史分野にて博士号を取得しました。

牧会先としては、土佐教会(四国教会)、三条教会(関東教会)、広島観音町教会(西中国教会)、浜坂教会(兵庫教会)、そして海外派遣宣教師としてニューヨークの日本語教会に任されました。帰国後、埼玉地区の行田教会より招聘を頂き、とても感謝しております。趣味は映画鑑賞(千本ほどのDVD・ビデオを所有)と『埼玉の歌』を聴くことです。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

## 集会報告

### ※第十八回IT祭り

西川口教会 金田 佐久子

六月十六日の午後、埼玉新生教会を会場に、第十八回地区IT祭りが開催された。今年もホームページ委員会より、越谷教会員の豊川昭夫氏に発題していただいた。

テーマは「生きている教会ー生きていくホームページを作ろう!」。



「今の時代に、ホームページのない教会は、存在しないのと同じ」。今は、教会に行ってみようと思う人の大半はインターネットで検索する。そのとき見つけてもらえないければ、教会に来てもらえない。しかし教会ホームページがあっても、例えば掲載されている情報が五年前のままでは「現在の牧師は掲載されている牧師なのか?」本当にこの教会は存在しているのか?」と、見る人に疑問を抱かせてしまう。では、なぜホームページが「死んでしまうのか(更新されないのか)」。それは、①最初は情熱をもって作ったが、忙しくなったため。②最初は業者が作ったが、その後お金がかかるため。③時間とお金がかかるのに比べ効果がないため。④担当者がいたが教会から離れたため等の理由が考えられる。

## ※婦人部の総会を終えて

安行教会 石井 わか

四月十五日(月)、大宮教会に於いて婦人部総会が開催された。開会礼拝は、久保島理恵牧師(東大宮)。使徒言行録十六章より「埼玉のメディア」と題して説教をいただいた。家庭を持って仕事も続ける女性の多い現代は、特に信仰が重要。また、家族への信仰の継承の必要性を強く訴え、「共に埼玉のメディア」として頑張りましょう」と、力強いメッセージをいただいた。

続いて四十一教会・伝道所から一二三名出席で総会開始。昨年度を振り返り、そして今年度に向けて活動計画、予算が示され、主の導きの下、すべて承認され、閉会となった。

婦人部においても高齢化に伴い、様々な課題はあるがすべてを主に委ね謙虚に従い、今期の主題「聖霊に導かれ、神の召しに応えるー使徒言行録を学びつつー」に基づき活動していきたい。そして、地区の教会・伝道所をたえず覚えて祈りつつ歩む一年でありたいと願っています。

(婦人部委員長)



牧師になった卒業生方の御姿に接すると自分が歳をとったことを痛感させられます。ガサツな人間ですが、楽しいお交わりをお願い致します!

※教会音楽講習会

『讃美歌21』再発見①

浦和東教会 岩佐眞知子

もつと使おう！もつと歌おう！と題して日本聖書神学校教授、荒瀬牧彦先生をお迎えした講習会が六月二十九日(土)大宮教会礼拝堂にて行われました。生憎のお天気でしたが、十九教会、五十八名と多くの参加者が与えられ、熊江秀一先生(大宮教会)の開会祈祷で始まりました。

最初に賛美歌集の危機と意義について問題提起がありました。様々な要因で新しい歌集を出しづらい現状があるが、歌集を礼拝で用いることは教会の福音理解、敬虔、宣教の形成に深くかわるものなので不要ではない。そして賛美歌集の持つ意義を再確認する必要があると話されました。

次に「まえがき」と目次から『讃美歌21』を学び直します。賛美歌は礼拝を支える歌であると再認識しました。歌詞をよく味わい、フレーズを大切にしながら、共に声を合わせて美しく歌うことを私達も心掛けたと思います。

続いて賛美歌の歴史。それぞれの時代を地層にたとえ、その

上に『讃美歌21』が立っていることを学びながら、挙げられた代表的な讃美歌を歌っていききました。聖書の時代から中世を経て、宗教改革時代のルターの会衆賛美やカルヴァンの詩編

歌。今、私達も親しんでいる十七世紀以降のドイツ、英国、十九世紀米国の賛美歌。二十世紀に英語圏の国々で数多く賛美歌が生まれた隆盛期、そして日本を含むアジアでもさまざまに賛美歌が作られています。最後に「新しいぶどう酒は新しい革袋に」の聖句が引用され、今の私たちでなければ歌えない歌があると学びました。これからも新しい賛美歌が作られるのを私達も待ち望みたいと思います。そして先生は「新しい歌を主に向かって歌え」の新しい歌とはなんだろう？と私達に語りかけておられます。新しい人が歌うと新しい歌なのだとのこと。

今回私達は四人の奉仕者のピアノ、オルガンに合わせて讃美歌を大きな声で美しく歌うことが出来ました。先生、伴奏者に感謝いたします。

次回十月二十六日(土)の音楽講習会が楽しみです。

(教会音楽委員会)

※教師一日研修会報告

加須教会 舟生 康雄

七月八日(月) 午前十時より大宮教会を会場に教師一日研修会が行われました。

講師は青山教会牧師増田将平先生です。参加者三十六人(二十七教会・伝道所)。

開会礼拝は川添義和先生(埼玉大通り)の司式と鈴木佳子先生(久美愛)の奏楽で行われ、主のぶどう園で働くことの大切さが語られました。



講演は「種を蒔く教会」共に考える青年伝道」と題して行われ、初めに増田先生と青年伝道の関わりが紹介されました。

先生は、最近では日本基督教団宗教改革五〇〇周年記念教会

中高生・青年大会「リフォース五〇〇」実行委員長の働きをされ、幅広く青年伝道に関わってこられました。

次に教団の青年伝道の歴史から、かつて教団に青年専門委員会が設置され活発な活動がなされていたが、教団紛争により活動が停止されたこと。青年伝道は教区や有志団体に担われてきたこと。二〇〇〇年の教団総会で「日本基督教団は二十一世紀に向けて青年伝道の使命に力を注ぐ件」が可決され、全国規模大会開催の先駆けとなった二つの有志団体による大会があったこと。その後日本基督教団教会中高生・青年大会二〇一四が行われ、さらに二〇一七年八月と翌年三月にこの大会が開催されたことを動画を見ながらお話し下さいました。(動画 youtube 「リフォース五〇〇」で検索) 若者の心に届く言葉を探るためには、若者の言葉に聞き若者と対話する心を持つことが必要だ、と先生は大嶋重徳キリスト者学生会総主事の言葉を紹介されました。

午後は分団に分かれて各教会の青年伝道について語り合いました。種まきの大切さを確認しました。(教師委員会委員)

埼玉地区教会全体 修養会へのおさそい

岩槻教会 小林 眞

二年毎に開催している埼玉地区教会全体修養会は、今年で四十四回を数えます。かなり長い間、軽井沢南ヶ丘倶楽部を会場に二泊三日で開催し、そここそ避暑に来たような環境での修養会でした。しかし、三日間という期間や、費用(参加費・交通費)の点からか、人数は集まっても、参加教会数が一つ一つの感がありました。

そこで今回は、思い切って、一泊二日、会場も埼玉県内と大枠を決めてから会場探しを始めました。埼玉県の中央より少し北ですが、幸い「国立女性教育会館(比企郡)」が候補にあり、費用の点でも一昨年の半分程度で済むことがわかりました。

今回の修養会講師は、北陸で二十八年間、伝道・牧会をされたのち現在、北陸学院学院長・大学長のお立場でご奉仕されている楠本先生をお迎えすることができました。

地区内諸教会の出会いと良き交わりの時となりますよう、皆様のご参加をお待ちしています。(準備・実行委員長)

※婦人部全体研修会

安行教会 石井 わか

四月十五日(月)の婦人部の総会に続き、婦人部の大きな行事である「埼玉地区婦人部全体研修会」が、七月一日(月)大宮教会において開催されました。梅雨の最中の小雨混じりの一日でしたが、三十七教会より一〇九名が集う集会となりました。

全国教会婦人会連合第二十六期の主題「聖霊に導かれ、神の召しに応えるー使徒言行録を学びつつー」に基づき、開会礼拝は、久美愛教会の鈴木佳子牧師。使徒言行録二章より、「力強い教会の働き」と題してメッセージをいただきました。

そして、今回の講師は、敬和学園大学准教授・宗教部長の下田尾治郎先生。尚、この下田尾先生は、昨年六月に新潟で行われた関東教区婦人会連合総会・修養会の講師を務められた先生で、前地区委員が、そのお人柄や講演内容をすっかり気に入られ、来年は、是非埼玉にと、約束をとってくださった方です。

講演題は、「生ける聖霊の働きを信じて」。午前、午後と

一時間ずつの講演で、エゼキエル書三十七章や使徒言行録二章、他いくつかの箇所を示しつつ、用意されたレジュメに基づき、私たちの知識や思いをはるかに超えた形で現れる聖霊の働きを、ご自身の貴重な体験を通して語られました。使徒言行録のエピソードに触れつつ語られる先生のお話は、どれも非常に心打たれるものでした。

イエス・キリストの名を受け止め直し、わたしたちの思いを遥かに超えて、私たちの内に働いてくださる聖霊の働きを強く信じ祈り求める事の大切さを再び気づかされた思いです。この研修会で得た沢山の気づきや恵みを感じ、各自が教会の枝として、しっかりと主に連なり、用いていただけるようになることを願います。

会場を提供してくださいました大宮教会の熊江秀一先生はじめ婦人部の皆さま、そして多くの方々の祈りによって支えていただき、主の守りの内に無事に研修会を終えることができました。心より感謝いたします。

(婦人部委員長)

※役員・伝道委員研修会

飯能教会 木村光寿

七月十四日(日)午後三時から五時、埼玉新生教会において、役員・伝道委員研修会が開催されました。十七の教会・伝道所から三十八名の教師と信徒が集められました。

テーマは「さいたまの伝道」と題して、小林真牧師(岩槻教会、地区委員長)が講演してくださいました。



小林先生は、伝道の三つの要素をお語りになりました。一つ目は、熱意。「キリスト者は熱意を持って福音を宣べ伝えていくことが大切ですが、それだけでは不十分です。熱意だけでなく正しいこうとすると、自分勝手な福音理解となります。そのため二つ目の要素として『私

たちは何を信じているか』が、大切となります。およそ二千年間、使徒信条が告白されてきた。その成立過程は不明ですが、初代教会は、この信条を受け入れ、そして、告白してきた。そのため、この告白を変えてしまつと、福音が変わり、異端となる。ここで、「救い」と「恵み」の違いをはっきりと理解していなければならぬ」と先生は語ります。

そして「恵み」とは、私たちの生活上における恵みのことです。生活の向上であったり、病の治癒であったり、苦しみからの解放であったり、その恵みを祈り願うことは間違いいではない。主もまたそのことに無関心ではおられなかった。しかし、恵みは平等に与えられるものではない。それに対して、『救い』とは、それ遥かにまさる大きな救いの力である。その救いとは使徒信条に告白されているように、『罪の赦し、身体のみがえり、永遠の生命を信ず。』である。主の十字架と復活とによって成し遂げられた、罪の赦しと身体のみがえり、その救いの出来事を教会が絶えず確認しているかが重要である。それを確認することが牧会であり、また、そのこと

を宣べ伝える説教が一番重要な牧会となる。そのために、教会に十字架を立てる。それを確認しないと、自分勝手な救いを考えるようになる。」と先生は述べられました。

三つ目の要素として、聖霊が挙げられ、「伝道は教会の使命であるが、人間が必死になつて出来るものではない」と、コリント第二十二章三節「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのである。」を引用されました。私たちは人を教会に連れてくることはできるかもしれないが、聖霊によらなければ、その人に福音を知らせることはできない。「聖霊がちゃんとまとめてパランスよく働いてくださる。この三つの中で一番大きいのは聖霊ではないか。それで信仰生活が保たれる。」という言葉が強く印象に残りました。

小林先生の講演を通して、私たちは主がなされる福音宣教に対して、どのように参与することができるかについて、示唆やヒントが与えられました。これからも聖霊の働きを祈り求めつつ、私たちは主がなされる福音宣教の一翼を担うことができまうように、祈り願いたいと思います。(伝道委員会)

# 特集

## 十今、そして課題と展望

東京聖書学校吉川教会  
原田のぞみ

東京聖書学校吉川教会に赴任して三年目の歩みを始めています。ただ、一年目は引き継ぎも兼ね、単身赴任という形でしたので、昨年度、連れ合いがこちらに赴任して来てようやく、役員会をはじめ教会の皆さまと対話しつつ、現在も主の御心を日々祈り求めつつ過ごしています。

そのような中で、二年に渡り教会の課題とビジョンに「整理整顿」を挙げました。物的にも牧会伝道における面においても、主に役員会の方たちと取り組んできました。今年度に入り、色々な課題も次のビジョンにつながることで見させて頂き感謝しています。



当教会は名前にもある通り教団認可神学校である東京聖書学校の設置法人並びに建物併設しています。そして原則、当学校は全寮制です。つまり、教会の牧会伝道の働きと同時に、神学生と共に過ごす中、教育寮の舎監としての働きを担うものです。そういう点において、二つの働きを同時進行で進めていく点において体力？等、要するでしょう。様々な働きの中で、自らの教会の今のボーダーラインを見極める視点と潔さ、そして、主に信頼する信仰が益々問われると思わされています。

地区、教区内において、出向いていくことが希薄な状態で申し訳なく思いますが、「連帯を大切に」歩みたく願っています。

### 十会堂建築を目指しつつ

草加教会 高田 輝樹

教会設立六十周年を迎えた草加教会は東武伊勢崎線獨協大学前駅近くの「ひかり幼稚園」をお借りして引き続き礼拝を続けている。礼拝出席者は三十名に迫り、中規模教会たる責任を負いつつある。

二〇一八年十月には幼稚園の正面玄関前に初めて教会の掲示板ができ、新来者が以前より頻繁に見えるようになった。主日は婦人会の尽力により毎週愛餐があり、二人一組での祈りをもって散会する。

信仰の礎は、聖書を批評せず御言葉を素直に信じて愚直に実践すること。人育てに教会活動の軸を置く。牧師は保守改革派の神学を学んだから、大人礼拝での説教は教会学校のそれと大差ない。

普段、教団事務局で働く牧師は平日不在のため、姉妹二人が立ち上がって世話人となり、いのちのことは社「月刊マナ」を用いて水曜日に祈禱会を持つ。



教会設立六十周年を受け、本年一月に牧師館を購入。会堂建設のため諸教会がご献金・ご協力下さった資金を用いさせて頂いた。また関東教区のご推薦を得て教団伝道委員会より一

九五万円の援助金を頂く。資金は底を突いたが夢は大きく、今年から再び会堂建築を目指す。

疲れた牧師が世界から集まり翼を休め、元気を回復するよな教会を目指している。受けるより与えるが幸い、を皆で体験したい。

### 十教会の「今・課題・展望」

所沢みくに教会 最上 光宏

今年度は、教会主題を「活きたキリストの体としての教会」と決めました。信徒一人ひとりがしっかりとキリストに結ばれ、キリストに従う歩みをする事によって、「活きたキリストの体」として成長することが願いです。

そのためには、牧師主導の教会ではなく、信徒一人ひとりが自立して、それぞれの賜物を生かして、共に「キリストの体」を形成すると共に、生き生きと世に仕える教会となる必要があります。

教会の成長とは、単に会員数を増やすことではなく、キリストの命と力にあずかって、世のために生きることと心得ます。私たちの教会では、地域に仕

える教会を目指して、「ティーアワー」や、「幼児と母親の集い」を開いています。月一回の「ティーアワー」には、毎回、近所の高齢の婦人たちが七、八名が楽しみにして集まって来られます。週日、月二回開かれる「幼児と母親の集い」は、育児に疲れている母親のつかの間の憩いの場になっていくようです。その中から、礼拝に連なるようになった母子もあり、子どもと大人が一緒に主日礼拝を守るようになってきました。



「こどもの教会」のスタッフによる「聖書のお話」は、大人にも喜ばれています。毎週礼拝後にもたれる「愛餐会」にも、子どもたちが加わるようになり、「神の家族」の賑わいを呈しています。これらのこどもたちを通して、戦争や公害のない明るい未来を切り拓く責任を痛感させられるこのころです。

地区委員会報告

二〇一九年度第一回委員会

日時 三月二十一日(木)

会場 大宮教会

出席 十一人

陪席 四人

●主な協議事項

一、埼玉地区総会議案の決議事項確認の件

総会補助書記を務めた大久保一秋教師、高橋真之教師の出席のもと、口頭で二〇一九年度埼玉地区総会議案の議決事項を確認した。

二、地区委員の担当・役割分担の件

- 委員長 小林 眞
- 副委員長 栗原 清
- 書記 大坪 直史
- 会計 町田さとみ
- 補助書記 本田 彰
- 補助会計 大熊 眞弓
- 伝道 大坪 直史
- 教育 指方 周平
- 社会 栗原 清
- 教師 竹内紹一郎
- 地区通信 町田さとみ
- H P 金田佐久子
- 修養会 小林 眞
- 壮年部 本田 彰
- 婦人部 栗原 初音

青年部 指方 周平  
障教懇 金田佐久子、

教会音楽 酒井 道雄

埼玉宗連 大熊 眞弓

同宗連 竹内紹一郎

同宗連 三羽 善次

教誨師 小林則義・委嘱  
澁谷弘祐・委嘱

カルト問題

白石多美出・委嘱

三、委員会日程と会場の件

第二回 五月十日(金)

会場・大宮教会

●閉会祈祷・大坪直史

二〇一九年度第二回委員会

日時 五月十日(金)

会場 大宮教会

出席 十一人

●主な報告

●地区内の教会・教師の報告

◎辞任

・上尾合同 木村太郎(代)

・国際愛 許 昌範(正)

◎就任

・上尾合同 武田真治(正)

・東京聖書学校

(神) 島 隆三(正)

●会計報告

三月一日から五月九日分

●各委員会・各部報告

●主な協議事項

1. 地区総会付託議案に関する件

◎議案第八号 地区会計監査

選任の件 候補者を決定した。

◎議案第九号 地区総会議事

録承認に関する件 「二〇一九年度埼玉地区総会議事録」を承認。

◎議案第十号 次回地区総会

会場及び日程の件

日時・二〇二〇年三月二十

日(金) 午前九時三十分

午後四時と会場教会候補

を決めた。以上、可決した。

2. 地区委員会主催集會等に関する件

◎新年合同礼拝の件

日時・二〇二〇年一月十三

日(月) 午前十時三十分開

始。今年度は全区合同で行

う。

◎地区総合協議会の件

日時・二〇二〇年二月十二

日(水) 午後七時開始。会

場教会の候補を決めた。

◎伝道協力協議会の件

日時・会場について三役会

に一任する。以上、可決し

た。

3. 地区総会設置に関する件

第六十九回関東地区総会運

営奉仕者を決めた。以上、可決した。

4. 地区委員会日程及び会場等の件 次の予定を承認。

第三回 七月九日(火)

第四回 九月十日(火)

第五回 十一月十二日(火)

第六回 一月十四日(火)

第七回 二月十四日(火)

会場・大宮教会 以上、可決した。

5. 地区委嘱状の件

地区月報七月号に掲載する

「埼玉地区各委員会・各部名簿」をもって委嘱状に代え

る。承認。以上、可決した。

6. 地区委員の担当・役割分担

変更に関する件

伝道 大坪直史→栗原 清

社会 栗原 清→大坪直史

以上、可決した。

●閉会祈祷・栗原 清

編集後記

二〇一九年度埼玉地区総会において、二期四年、地区委員長を務められた川染三郎教師に替わって、小林眞教師が地区委員長に選出され、新たに選ばれた地区委員を含めてその働きへの抱負を寄稿していただきました。また、地区の教会に就任された二人の教師のご紹介として、ご挨拶をお寄せいただきました。地区委員会を中心に新たな体制での活動も始まり、委員会・部会が企画を通してそれぞれの歩みが進められていることを報告において知らされます。

また、埼玉地区の教会での牧会に長く携わり、地区及び教会においても委員長としてのお働きに尽力され、ご指導くださった鈴木一義教師と岡本不二夫教師が六月に続いてみ許に召されました。今号は、先生方の在りし日をしのび、追悼文を依頼し掲載しました。

例年になく遅い梅雨明けと共に酷暑の季節を迎えています。各教会の夏の行事、そして地区全体修養会のプログラムが、実り豊かな集いとなりますように願いつつ、今年度第一号の通信をお届けします。

(茨木公子)

